**活動レポート**

郝　豆豆（かく　とうとう）

2015年日本語または日本文化が好きで大連民族大学の日本語学科に入学した。そして、大学3年生の終り頃、成績が学年トップの20％に達し、広島大学の日本語教育学の先生との面接を受けたため、大学4年生になって広島大学への留学することが出来た。それから、卒業論文を完成して2019年の6月に大連民族大学に戻り、卒業した。同年の8月から、名古屋市で仕事し始めた。今は設計開発の仕事をする余暇にbilibili（中国の動画共有サイト、機能がYouTubeと近い）でUP主をやっている。

大学三年生の時、日本語のコミュニケーション能力を向上させるため、豊安という会社でインターンシップして一年間日本人に中国語を教えていた。最初に自分の考えを一方的に相手に伝えたいと思ったが、授業がうまくならなかった。あの時、文化と言語がコミュニケーションの越えがたい壁だと思っていた。しかし、授業中に相手の状況に合わせてコミュニケーションしたり、相手の理解度に合わせて授業内容を説明したりすることで、授業内容が分かりやすくて面白くなってきたと言われてくれた。そのことから、情報の発信者は決して一方的な言いっぱなしではなく、受信者の変化を観察することが重要だと考えた。

日本での留学生活が始まってから、日本の見聞や個人の海外体験感想を記録するのをきっかけとして、bilibiliという中国の動画共有サイトで投稿し始めてUP主になった。今ではチャンネル登録者数が多くはないが、広告主から依頼を受けて商品を紹介した経験も少しある。また、動画共有サイトと言えば、YouTubeは世界最大の動画共用サイトとして多種多様な動画広告があると思って、たくさんのYouTuberの動画広告の配信内容を見たり配信方法を参考したりして個人の広告配信をしてみた。それから気づいたのは、インターネットの発展に伴い、情報の発信者と受信者は双方向のコミュニケーションを取れるようになっているのと同時に、YouTuberの動画広告も双方向のコミュニケーションになった。つまり、YouTuberが配信した動画広告は、単一方向的に視聴者に影響を与えるのでなく、視聴者の評価や動画の視聴率もYouTuberの動画広告の配信に影響を及ぼしていると考える。インターネット時代の受け手の変化がいかに送り手の広告の考え方に影響を及ぼしているかについて興味を持って研究したいと思う。

また、今は社会人として、大学時代とは違い、深く物事を考える力の大切さを感じている。それに、日本の職場で「思いやり」ということを理解して、視点を変え事象を見ることも必要だと考える。これから、広報メディアに関する勉強と研究を通じて、インターネット時代の受け手の変化について自分独自の新しい発見や解釈を見つけ、自分の関心領域に研究を進もうと思っている。